

# 調査部報告書情報シート

記入年月日: 2007年3月31日

情報No.	S-07-1	情報区分	プラ処理協研究報告		
題名 報告書名	平成18年度産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告書				
報告年月	2007年3月	ページ数	208	著者・出版元	プラ処理協

## 【キーワード】

処理方式	アンケート	要素技術	
樹脂類別	PE、PP、PS、AS・ABS、 PVC、PET他	化学物質名	
形状別	ペレット、フレーク、フィルム・シート、 ひも、重包装袋、クロス他	用途別	
法規制	廃棄物処理法	国別	日本

調査研究内容	<p>平成12年度の循環型社会形成推進基本法に先立つ平成11年度に産業系廃プラスチックの調査を行い、平成16年度と今回平成18年度に経年後の変化をフォローアップする目的の調査を行った。基本法後に施行された各種リサイクル法を反映する廃棄物の再資源化動向を把握するという判断に立って、経年調査の方法で平成16年度に排出量の多い6業種の調査を先行実施し、今年度残り製造業6業種・建設業2業種の調査をした。</p> <p>平成18年度の調査事業として製造業6業種と建設業2業種の計8業種について、廃プラスチックの排出、処理処分状況について調査し、その結果を公表した。</p> <p>平成16年度の製造業6業種の調査結果につきましては、当協会から既にだされている「平成16年度 産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告書」を参照いただき、本書と併せてご活用いただきたい</p>
調査研究結果	<p>調査対象の8業種から発生した廃プラスチックは、前回平成11年度の調査と比較して、再資源化率の向上、埋め立て処分の削減などで大きく進展した。排出量は3業種に抑制が見られた。</p> <p>(1) 再資源化率は平成11年度では22.6%、平成18年度では65.8%で大幅に向上した。埋め立て量は5分の1以下に減少した</p> <p>(2) 再資源化率が向上した主な理由はサーマルリサイクルが9.7%から38.2%へ増加した特に発電焼却が著しい(5%から27%へ増加した)</p>
備考	